

THE 1983 3 KOBECOCO

MARCH No. 263

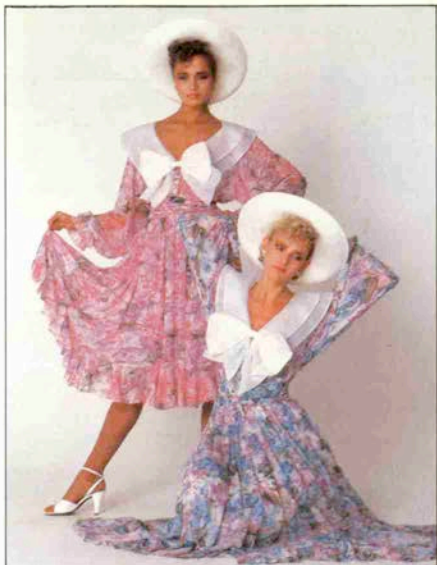
月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可

昭和58年3月1日印刷 通巻263号

昭和58年3月1日発行 毎月1回1日発行





'83 BENIYA BRILLIANT MODE

こころの色はブリリアント。

きのうまでとちがう
こころの色に気づいたら
ガラッと衣裳を変えてみませんか?
〈ベニヤ〉スプリングコレクション、
ポッテチェルリが
春に特有なものとして描いた輪郭の、
あの多感な直線のようにきわだつ
あなたのセクシャルエレガンス。
こころの色がそれぞれブリリアントに
いっそう輝いて見えてきます。



BENIYA

KOBE・OSAKA・TOKYO


本店／神戸市中央区三宮センター街1丁目 ニューセンター1F・2F ☎332-2135



世界で一番小さな海

真珠



 田崎真珠

おおらかな愛 ● 豊かな表現



伊太利屋

春夏新作コレクション

3月26日(土)～29日(火)

AM11:00～PM7:00

於／ゲスト神戸店

☎(078) 241-3133

北野へ お出かけのときはお
気軽にお立ち寄りください。



Guest

伊太利屋直営店

ゲスト神戸店

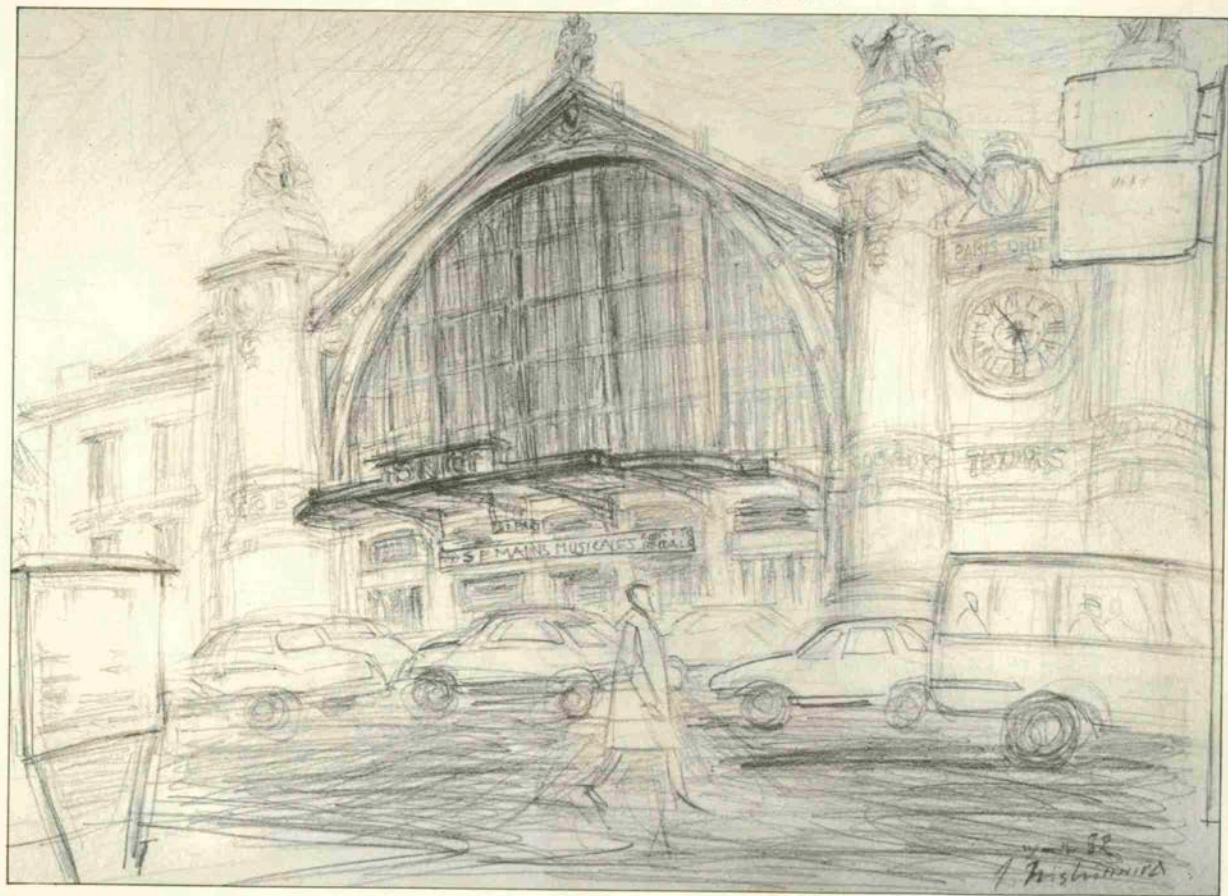
神戸市中央区山本通2-14-25 ☎(078) 241-3133
カーザ伊太利屋第8ビル



スケッチブックから〈51〉

● ヨーロッパを描く

ツール駅



絵・西村 功

第八回

はちの会
作品展

会場／神戸三宮地下街さんちか広場
TEL. (078) 391-9096

出品者目錄

[illegible]

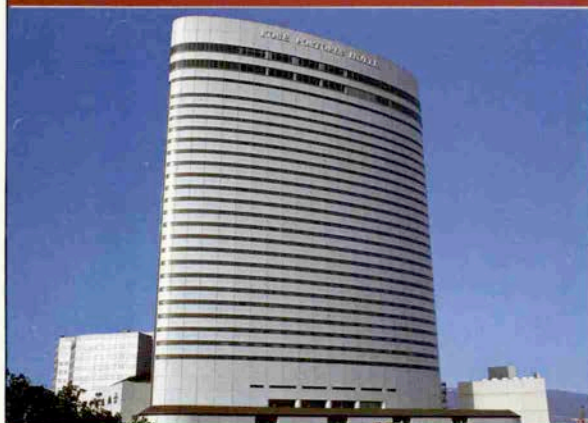
木彫“はちのす会”本部

〒662 西宮市千歳町4番12号 TEL 0798-23-3300

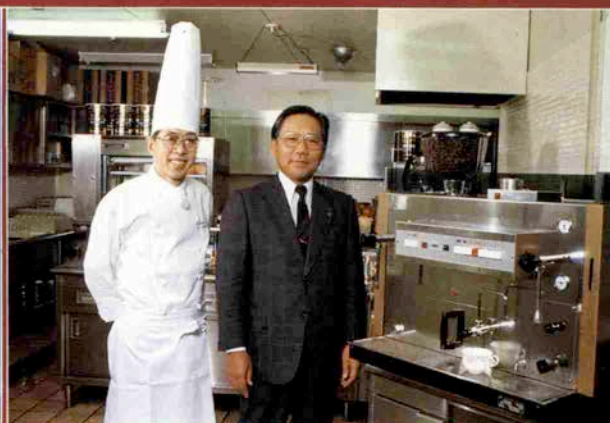
渡辺一生



一流ホテルもすすめる **Mr. Egro**



●神戸ポートピアホテル



●ミスター・エグロと(左)佐野幹雄シェフと中内社長



●ティールラウンジ(ベル・クール)

「珈琲はむづかしいんですよ
香り、味、温度が、いつもよく同じ
状態でないといけない。スイス生れ
のコーヒーロボット **Mr. Egro** はボ
タン一つで誰でもが、いつも同じ味
でコンスタント。これは凄いことですね」

中内 力 <神戸ポートピアホテル社長> ☎ (302) 1111

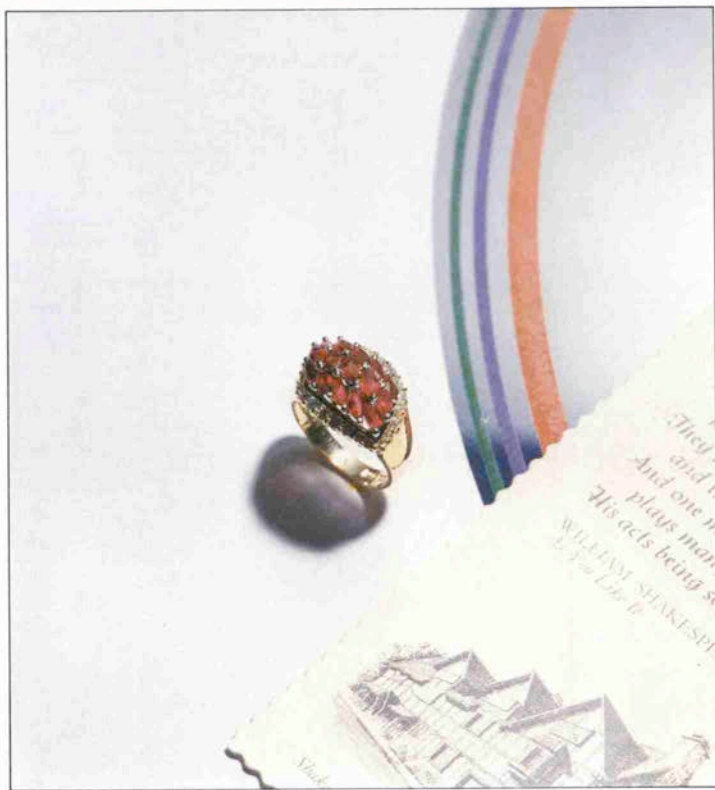


ヨーロッパの味と香りを伝える **Mr. Egro**

株式会社 **南インターナショナル**

- 本社 〒651 神戸市中央区浜辺通5丁目1-14 神戸商工貿易センタービル17階 PHONE 078-232-1301代
- 東京支店 〒150 東京都渋谷区猿楽町29-18 ヒルサイドテラスB-8 PHONE 03-496-8000
- 名古屋支店 〒460 名古屋市中区栄1丁目12-10 フシミファーストビル301号 PHONE 052-203-1018

春一番の輝き



Tajima
宝飾店 **タジマ**

元町 2 丁目 TEL 331-5761 代表

ひたむきな情熱で創作に挑む／藤田佳代（舞踊家）

昨春秋、国際交流会館で初のリサイタル「藤田佳代作品展1」を開き「弓月」高堂敏治詩／弓月、「風」（高村光太郎詩／ぼろぼろな駝鳥）、「千羽鶴はもう折らないで」（谷川俊太郎詩／千羽鶴）を発表した。詩をモダンダンスに表現した異色作でその内底には現代社会に対する憤りと生きているものを大切に思う「こころ」が秘められている。明確な主張を込めて数々の作品を創作、演出してきた。82兵庫県芸術文化祭洋舞合同特別公演「地上の星」では、竹中郁氏の5篇の詩に作舞、新鮮な感覚の構成と振り付けがみごとだった。

中学時代から法喜聖二舞踊研究所で学び、高校2年の時「外科医になるか舞踊家になるか迷いました。結局創り出すことができる「踊り」の道を選びました」。ひたすら「踊り」に挑み続ける情熱と独特の感性を持った女性である。「この賞を契機に新しい方向へ進んでみたい。音楽、照明、衣裳を含めた総合的なものを追求していきたい」と夢はふくらむ。近い目標は現代音楽を勉強すること。東灘区在住。

（舞踊研究所にて）



自由な感情を歌で表現する／井上和世

（メゾソプラノ）

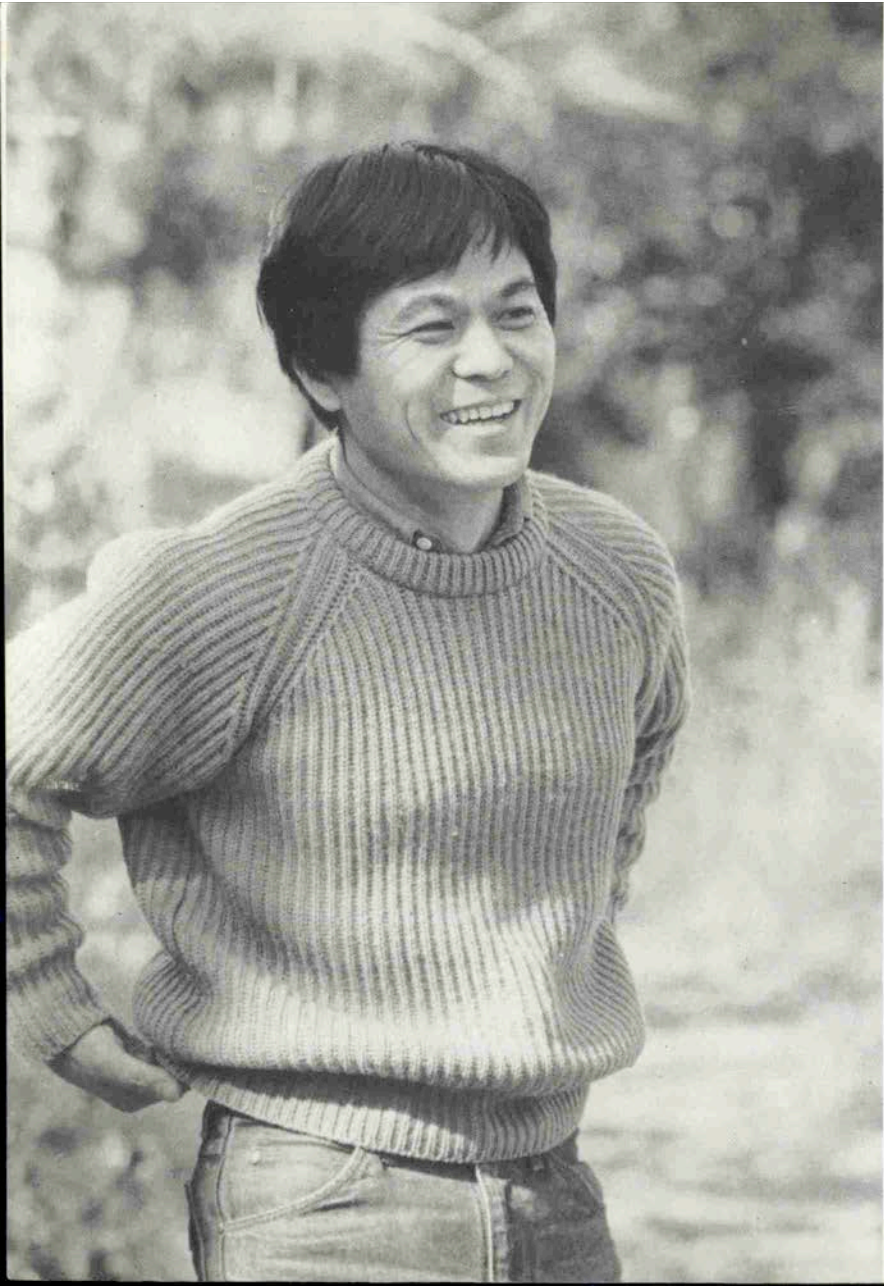
大竜寺の奥さんは、歌うのが好きでたまらないんですよー自分のことを「大竜寺の奥さん」という。再度山大竜寺住職の長女。一昨年結婚したばかり。昨年も精力的に歌った一年だった。四月には神戸と東京でリサイタル。神戸女学院大学時代の恩師、中村茂隆氏作曲の「すばらしい海」を歌った。年間通して約16回のコンサートをこなし、夏には二か月、ヨーロッパへ研修にも発った。声楽を始めたのは十四歳の時。大学卒業後、パリ国立音楽院に留学。三年後、同音楽院を一等賞で卒業、デビューリサイタルはその翌年だった。手がけているのは主にフランス歌曲。余り日本人に知られていない分野だが、これほど魅力的なものはないという。「同じ歌を歌う時でも以前はその歌の中に自分の一生を必死に問いつめた。でも結婚してからそんな危機感がなくなり、落ち着きができました」三十六歳。彼女にとって歌うことは何事にも勝ることなのだ。（大竜寺山道にて）



自分の身近にこだわる／宮崎豊治

（彫刻家）

本人は抵抗があるそうだが、「私小説作家」と呼ばれることがある。79年からの創作テーマが、一貫して『身近モデル』と称する、自分を「ものさし」とした作品にこだわり続けたからだ。記憶、視界、肉体が鉄を素材として再構築される。作品を一見して理解するのは難しいが、説明を受けたときに覚えるのは謎解きに似た楽しさである。ただ本人は、見てすぐわかる作品を、今後創作する意向だ。79年以前は木も扱っていた。しかし木は素材そのもののよさのため、自分の意図以外で評価されることもあると拒否した。「本来手を動かして、物をつくるのが好きだけ」と大義名分を否定、「彫刻なんて生産性もないし、社会にとっては邪魔物が置いてあるに過ぎないのかもしれない」と分析する。それでも作品を創ることに執着する内向の作家である。出身の金沢の実家は代々、茶金作りの名門。彫刻家のルーツをそこにみる。夫人の宮崎みよしさんも同じく彫刻家。長田区在住。36歳。（自宅近くで）



●第12回ブルー・メール賞受賞者

ファッション部門／カメラ・米田 定蔵

実力ついた10年目のK・F・S

（コウベ・ファッション）

「神戸市のファッション都市化運動10年1節のしめくりとして、この賞を受けたことは「K・F・S」（コウベファッションソサエティ）としては、大変意義のあることですね。神戸市が10年前に始動した神戸ファッション市民大学のOBが中心になっている訳ですから……」

柿本雅司会長（伸和スタイル）は、赤い神戸大橋を背に集った理事の人々と共に若々しく情熱を込めて語る。「K・F・S」は、神戸のあらゆるファッション産業に従事する第一線の人々のグループで現在70名。春と秋に「ヨーロッパ・NYの最新情報」を立亀長三氏を招き公開講座を開き、マンスリーサロンでは、昨年は「売る」今年は「人財」をテーマに連続セミナー。また会員の米田博司さんのライフワークである「福祉のファッション」も10数名がプロジェクトチームを組み地道に取りくんでいる。昨年3月にはファッション誌「swinging」も刊行。10年にしてファッションリーダーチームに成長した。



●第12回ブルー・メール賞受賞者

文学部門／カメラ 米田 定蔵

飄々とマイペースで書く／福岡勝利

（本田技研勤務・ひのき同人）

馴染みになった本屋の店主に口説かれて、何気なく入った同人誌（ひのき）「まさか、自分が小説を書こうとは思ってもよらなかった」という。54年8月チャイルド社時代、処女作『走れ、走れっ！』を書いた。編集者の審査と朱だらけの添削原稿を手にしたとき、自分の内部で蠢くものを知った。

——なぜ、僕が小説を書くのか？ と、自問する前に「毎号、自分の書いたものが、載っている、それだけでよかった」と、話す。彼の住む鈴鹿の街は、うすい紫色のベールに包まれた、隠れ場所^{シールド}でもある。呐々と、想いつくままに話すとき、その眼は明るく、涼し気だ。「まだ、霧の中」と言いながら、日常生活の中からふと遊離した瞬間、「何かの輪郭」がぼんやりと浮かび上る。数日前の出来事が創作のための瞬発力となって上昇してゆく。彼はそれを鷹のように追う。追いつめたとき、掴まえようとした右手先に獲物の「かたち」が見えてくるのだ。それはいうまでもなく彼自身だ。大阪生れ。25歳。

（北野町・ペルシャ美術の館にて）



赤、青、緑の3つのチェック

素敵な暮らしを提案する 《さんちかメンバーズカード》に 新しいコース誕生

明日の暮らしへのアプローチとして、
みなさまに愛される《さんちか》のおなじみ
赤いチェックのメンバーズカードに
新しい方式のカードが加わりました。

緑のチェックの《リボルピングコース》
ブルーのチェックの《ヤングコース》

ぐんと使いやすく、身近になった
3つのコースからご自由にお選びいただけます。

新しく誕生		
レッドのチェック 《アドオンコース》	お支払いがぐんと楽に 緑のチェック 《リボルピングコース》	18歳からカードライフを ブルーのチェック 《ヤングコース》
※最高60万円までのショッピングが可能です。 ※20万円までキャッシングサービスが指定銀行でご利用いただけます。 ※ご家族でカードショッピングを(ご一家に4枚まで発行いたします)。 ※年齢20歳以上、勤続2年以上の方。		※最高30万円までのショッピングが可能です。 ※10万円までキャッシングサービスが指定銀行でご利用いただけます。 ※年齢18歳～25歳。
<div>※均等分割払い</div> <div>●お支払い回数をご指定ください。</div> <div>●3回払いまで手数料はかかりません。</div> <div>●ご負担の少ない20回払いまでご用意しております。</div> <div>—— お 支 払 い は ——</div> <div>※定額返済(元金定額)</div> <div>●月々のお支払い金額をご指定下さい。</div> <div>●いくらご利用いただいても月々のお支払い金額は一定です。 (ご指定金額の変更は可能です)</div> <div>※手数料(0)の翌月1回払い、ボーナス一括払い、ご負担の少ないボーナス併用払いもご利用ごとにご自由にお選びいただけます。</div>		

ご入会手続きは、とてもカンタン

銀行印をご持参になりインフォメーションこうべさんちか案内所へお越しください。

☎ (078)332-1570

バラ色の明日がみつかる街



Santica Town 神戸三宮



ある集い 木彫“はちのす会”

ベテラン門下生 気鋭の作品展

第八回木彫“はちのす会”作品展は三月十七日より三宮さんちか広場で催される。昭和三十七年にこのグループは結成され、回を重ねる毎に、全国各地からの観覧者が増えている。主宰の渡辺一生氏は、三十余年前に木彫りに魅せられ、独学で始めた生粋の神戸っ子。現在西宮にアトリエを持つが、木彫教室は、関東、関西、北陸、山陰と全国十二カ所に広がる。NHK婦人百科でも講師を務め、著書も数冊あり木彫技術の伝播には熱心だ。“はちのす会”のメンバーには木彫歴十年といった師範クラスのミセスが多い。作品に性がないのと同じように教える側にも男と女の区別はない——となかなか厳しいが、皆大変熱心だ。最高年齢者は七十五歳。エネルギー一杯でイキイキと作品づくりに励んでいる。展覧会も単に広い会場に作品を埋め尽くすというのではなく、小さくてもピリツとしたものが並ぶ。自分の彫った作品には愛着が湧き、作品を側に置いて眺め、触っていると、自分の子供のように可愛いと生徒達は口々に語る。

神戸らしい雰囲気を持ったこのグループの作品展が楽しみだ。

■第八回木彫“はちのす会”作品展
とき/昭和58年3月17日(木)～22日(火)
ところ/さんちか広場(神戸三宮地下街)

午前10時～午後8時

《合わせて35頁もお読みください》

エトランゼの 輪郭 13

小磯 良平

1903 / 神戸に生まれる 1922 / 神戸二中を卒業、東京美術学校西洋画科に入学 1928 / 渡仏、1936 / 新制作派協会を結成、以後日本洋画壇の巨匠として活躍。その豊かな女性像は人気が高い。1979 / 文化功労賞受賞 昨秋、芸術院会員になられ益々画境に磨きがかかるこの頃です



モデル / エステラ・サラスさん(ベネズエラ)

私の婦人像について

ここ数年来、西洋の婦人を描き続けているが、中でも顔の構造にとっても興味がある。描くとき、クラシックの大家たちの作品を参考に、アトリエでどういうふうを描けばその雰囲気が出せるか試みようとしている。

日本人を描くと眉毛と鼻柱の交わりが平べったくなるのが特徴であるが、西洋人の場合はそれが立体的である。体と顔のバランスに於ても民族的な違いは大きい。

しかし私は西洋人だからといって、西洋人らしい描き方はしない。ルネサンス時代をみても西洋人らしい美人の描き方はしていないようだ。当時のモデルの女性をみるとギリシア、トルコ、或いはアラビア系の感じが強いように思える。

顔の構造に興味をもち、長い間くり返し描いてきて、自分自身、多少描き易くなった気がするが、本当につかみきっていないかもしれない。この習作はそれを解決したいと思って描いた。



婦人像
木炭紙全紙